

令和3年度 第4回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 令和3年9月14日（火）14：00～16：00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 講座室2
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 10名（うちZOOM参加者1名）
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長8名（上水南・大沼公民館欠席）
- 4 傍聴者 3名
- 5 配布資料 （1）令和3年度 小平市公民館定期講座等実施状況表・・・資料1
（2）令和3年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・資料2
（3）令和3年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・資料3
（4）公民館運営審議会8月自主研修会資料(要録、アンケート)・・・資料4
（5）夏休み学習室 集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5
（6）公共施設マネジメント関係資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料6
（7）令和3年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・資料7
- 6 次第 （1）館長報告
（2）令和3年度公民館定期講座等について
（3）東京都公民館連絡協議会について
（4）自主研修会の振り返りについて
（5）その他

会議の概要

1 館長報告

- （1）市議会9月定例会における公民館に関連する一般質問の内容について

1. 比留間洋一議員より「小平第十一小学校及び近隣公共施設の複合化はどのような方向性か」の質問について

児童や公民館利用者の増加への対策はどうかという質問に対しては、児童について

は短期的には微増傾向であるものの、長期的には減少することが見込まれている。一方、公民館利用者については、現状においては増加傾向にないものの、施設の更新後には利用者の増加が想定されることを踏まえて、学校部分については小学校設置基準等に基づき必要な部屋を設置するが、将来的な児童数の減少や、学校に複合化される仮称 地区交流センターに対する需要の増加など、状況の変化に応じて容易に部屋の用途を変更できる構造とし、単独施設より効率的・効果的に利用可能な施設を目指す。

また、複合施設はどの部署が所管するのかについては、学校と複合化する仮称 地区交流センターを所管する部署は現時点では未定だが、学校部分とは別の管理者を設置し、相互に連携しながら施設の運営を行うことを想定していると市長より答弁があった。

2. 山田大輔議員より「文化と経済の灯を絶やさないためにコミュニティの再構築を」について

コロナ禍において公民館条例の見直しを行ったかと質問があり、見直しは行っていないこと。公共施設の Wi-Fi 環境整備はどの程度進んでいるかの質問には、市内 4 か所に整備済で、小川西公共床、中央エリア新建物では、整備を予定していると市長より答弁があった。

(2) 「緊急事態宣言」再発出に伴う公民館の運営状況について

「緊急事態宣言」は 9 月 12 日までとなっていたが、9 月 13 日から 9 月 30 日まで「緊急事態宣言」が再々延長となった。しかしながら、前回の「緊急事態宣言」における東京都の要請内容と大きな変更がないことから、9 月 10 日に開催された小平市新型コロナウイルス感染症対策本部会議において当該期間中も継続して、夜間の一般貸出を休止することが決定された。

夜間貸出を予約されていた利用者の皆様には、直接ご連絡してキャンセルの手続確認をさせていただいた。

(3) 公民館まつりの中止について

令和 3 年度秋季から冬季にかけて予定していた、7 つの公民館まつりについては、各館の利用者懇談会等の公民館利用者が組織する「まつり実行委員会」と調整・協議の結果、中止することとなった。

中止する公民館まつりは、10 月に実施予定だった小川西町・花小金井北・上水南の各公民館まつり、11 月に実施予定だった小川・津田・鈴木の各公民館まつり、加えて 1 月に実施予定だった大沼公民館の 7 つの公民館まつりである。

中止判断に至った主な理由としては、

・まつりに参加を希望する団体が少ない（活動の停滞による練習不足や発表作品未完成）こと、

- ・まつり会場での3密回避やソーシャルディスタンスの確保等の感染対策を徹底できないこと、

- ・今後の感染状況が不透明であること、等が挙げられている。

なお、3月に中央公民館での実施を予定している、こだいらオール公民館まつりについては、まつり実行委員会と検討している。

- ・仲町は、展示会に変更して実施予定である。(10月2日、3日)

(4) 大沼公民館のエアコン故障について

大沼公民館・図書館のエアコンについては、ガス（ヒートポンプ）を利用しており、修理の見積もりが、非常に高額になることが判明した。このため、電気エアコンへの取り換えも検討することとし、現在業者とともに見積りや交換方法などの検討を行っている。

今後の修理の見通しは、予算措置や契約手続き、工期などを考慮すると、冬を迎える前に取り換えを完了することは難しい。冬季については、ストーブなどを用意して、ご利用いただけるよう準備したい。

(質疑応答)

委員 夜間の貸し出しをしないというが、居酒屋のようにアルコールを出すか出さないかではなく、部屋を貸すだけで、昼間は貸している。他の市はできるだけ開館しようと努力しているが、小平はその姿勢が見えない。何の議論もないまま、唯々諾々と東京都の言うことを支持するというやり方は納得がいかない。

館長 夜間の貸し出しの休止については、東京都からの要請ではあるが、人流を抑制するために20時以降の外出を控えてくださいという要請と、利用者に対しては20時以降の貸し出しをしないでくださいとの要請が東京都から出ている。小平市においても、市内の各集会施設については、人流抑制という観点から夜間の貸し出しを控えるとの判断に至った。

委員 要するに20時以降はダメということ。それなら、なぜ18時から20時まで貸し出さないのか。公共施設なのになぜできないのか。もう一度再考してほしい。コロナはなくなるものではないから、これからずっと共存していかなければならない。そのようなルールを真剣に考えてもらって、いかにサービスを提供できるか、維持できるかということについて、汗を流した検討が見えるような形にしてもらわないと市民は納得できない。

館長 小平市の集会施設は18時から22時までが1つの区分という形で区切られていることから、途中までということが現在の段階ではすぐに柔軟に利用できない状況になって

いる。指摘された課題については、何らかの形で柔軟な対応ができるように今後も続けて検討していきたいと思う。

委 員 夜しか集まらない団体があるので、是非 18 時から 20 時まででいいので使えるようにしてほしい。その際の決まり事や団体の利用方法、使う理由など丁寧に指導し、説明してほしい。

2 令和 3 年度小平市公民館定期講座等について 資料 1 について説明した。

(質疑応答)

委 員 花小金井北公民館の報告のなかで、サークル化成功事例が多い（2 年度 3 件、3 年度 2 件）とのことだが、サークル化するときの決め手というか、何が一番役に立つのか、どのような形のサポートをすれば上手くいくのか、効果的なことを参考に教えてほしい。

分 館 長 サークル化するにあたっては受講者同志のつながりをつくることを大切にしている。講座の回数が少なくても極力職員が受講者に声掛けをしている。講師にもサークル化した場合、引き続きお願いできるかどうかということも事前に話している。あと、サークル化の意向調査を行ったり、サークル化の話し合いの中にも職員が入って極力うまくいく方向で行っている。

委 員 企画の段階でサークル化できるとか、サークル化したいという思いがあって事業を始めるのか、それとも偶然うまくいった結果なのか。

分 館 長 講座は事業企画委員会が企画するが、実際に開催する講座は職員が選定して決定する。他の分館の企画と重ならないように選定している。企画されたものの中から、できるだけサークル化しやすいものを選ぶようにしている。サークル化できるかどうかは受講者の人間関係やつながりがどうかということを見て、意向調査は 1・2 回で終わってしまう講座以外はいつもしている。

会 長 鈴木公民館にお聞きしたい。1 つの講座がサークル化に結び付きそうな報告があったがプロセスをお聞きしたい。

分 館 長 講座で配布するしおりに、サークル化したい場合は最終回までに申し出るように記

載してお知らせしている。講座の最初と最後のあいさつの時にも口頭で説明している。
また、休憩時間の時にも職員から声掛けをしている。

委 員 仲町公民館のジュニア講座「親子で本気の理科実験 サイエンスクッキング」は、とても楽しかったのではないだろうかと予想するが、部屋が狭いので大変だったのではないか。

分 館 長 この講座については、通常の調理室ではこの人数は入らないため、学校コーディネーターの方や事業企画委員の方にもご協力いただいて事前の準備等をするということがあった。講師の方も備品や道具を運び込むのが大変で、料理をするということになるので、火の気のない所で行うため地域の方やLiNKsの方からポータブルガスコンロを借りて換気を十分にとって開催し、この講座はかなり大変だった。

委 員 中央、花小金井北、上宿公民館のスマホ講座は応募者が多かった。ワクチン接種の申し込みも電話がつながらず、スマートフォンのできない高齢者がとても困っている。今後需要が多くなると思うので、今回受講できなかった方に対して工夫してほしい。

事 務 局 高齢者の方のスマートフォン等の扱い方の講習ということで本年度、既に終わってしまった講座もあるが、これから実施予定の館もいくつかあるので、紹介している。来年度以降についてもこういった状況を踏まえながら検討していきたい。

委 員 小川西町公民館の健康づくり講座「公共交通で巡る小平まち探検講座」は秋と春の2回講座を開催するのは、応募者が多いために分けているのか。

分 館 長 部屋の定員が少ないので、同じ内容で2回実施してより多くの方に参加してもらえる機会を増やした。

委 員 花小金井南公民館の子育て支援講座「3歳まで子どもの病気」というテーマで、Zoomで開催するとのことだが、Zoom講座をどのような仕掛けで開催するのか。花小金井南公民館にはZoomの機械はないと聞いているが、どのような仕掛けなのか教えてほしい。

分 館 長 市役所のZoom対応の機器を借りて、講師と受講生をオンラインでつないでいる。

委 員 分館としては経由しないということか。

分館長 公民館はポストとして、市役所から借りたパソコンとポケットW I - F I を使っている。

委 員 重要だと思うことは、この方法が他の分館でも可能であるならば、スマホの講座や他に使えるものがあれば積極的に利用、活用して幅広い講座の運営はできないのだろうか。

分館長 分館で市役所のパソコンとポケットW I - F I を借りるには、このセットがまだ1組しかないため、確保できなければ無理との前提がある。連続講座は難しいが、単発のもの、事業企画委員会のように予定がわかっているもので市役所の機材の予約が取れれば開催できる方法もある。また、難しければ、中央公民館で開催する方法もあるので、いろいろな方法があると思う。

委 員 中央公民館にZ o o m機材があるのはわかっている。しかし、分館にはない。W I - F I もない。市役所のどこかのセクションが持っている機材を借りることができたとして、すぐに使うことができるのか。

分館長 Z o o mに慣れているか慣れていないかが一番大きな問題だと思う。ポケットW I - F I のスイッチをオン、パソコンを立ち上げると自動的につながる。Z o o mの画面を見ながら受講生の方と講師をつなぐのはスキルがいると思うし、基本的な操作、マイクは入っているかどうか、画面が出るかどうか、アクセスがあった時に認証できるかなどが普段からできる方でないといきなり明日から実施すると言っても難しいと思うので、徐々に慣れていくしかないと思う。

3 令和3年度 東京都公民館連絡協議会について

分館長より資料2、委員より資料3について説明した。

4 自主研修会の振り返りについて

事務局より資料4について説明した。

研修後の改善点としては、他の事業企画委員会がどのように取り組まれているかを学ぶための事業企画委員会の傍聴、事業企画委員の企画講座がどのように開催されているかを学ぶための講座の傍聴、欠席者の意見を開催前後に確認すること、を実施していく。

(質疑応答)

委 員 事業企画委員会の委員と一緒に研修会で貴重な機会だった。テーマが結構絞れていて、

「サークル化」という話しの中で、最近の若い人は、なかなか「サークル」や「仲間づくり」という言葉では、少し馴染まない面がでてきている。子どもや新しい参加者を想定した時に「プロジェクト」的な課題解決という目標設定がある方が講座後も集まって活動しやすいのではないかということを当日も申し上げた。事業企画委員の方からもそのような意見をもらえたとし、少し課題というか焦点が明確になった研修会だったと思う。

今後の公運審の中で、新しい参加者を巻き込んでいく講座、サークル化の新しい形、新しい手法など、これからの課題として明確になったのではないかな。

委員 事業企画委員会の若返りが大きな課題だと思う。当日は、ワクチン接種の関係で欠席したが、どこでも同じ課題を抱えていると思いながら資料を読んだ。その中に一つ、「学校と地域の協働活動を重要視する」という意見があった。地域教育コーディネーターという役割を担っている自分としては興味深く考えさせられた。振り返ってみると、いろいろな部分で公民館と学校はつながっている。ここ数年はオリパラ関連で国際教育の講演を学校で開催したり、公民館のサークルの方が学校の授業や放課後子ども教室を手伝ったり、前には高校生の講師という企画で高校生ティーチャーにも関わった。学校、地域に関わっているものとしては、公民館の予算で実施させてもらえるのはとてもありがたい。これからも、協力してどんどん広げていけたらいいと議事録を読みながら思った。

委員 事業企画委員の方には、無報酬という中でこれだけのことをやって頂いていることに感謝する。市民の方が喜んで学べる機会の企画を本当にボランティアという形でやって頂いていることは、他の市民の方にも伝えたいくらいありがたい。なかなか公民館に来られない方もいるが、学校に配られるチラシは保護者の方はよく見ている。公民館の企画がどのようにして作られるのか、どのような企画があったら学びたいか、参加者を増やすためには、小学校だけでなく中学校、高校、大学など若い世代の方への呼び掛けを検討しているということなので、引き続き検討していただきたい。

「サークル化」というところでは、参加されなかった事業企画委員の方にも伝えていく必要があるのではないかなと思った。

委員 事業企画委員の皆さんと公運審とでこのような話し合いができたことは良かったと思う。タテのつながりではなく、ヨコのつながりができることは非常に重要なことだと思う。中央だけでなく、分館の委員も出席して、生で話しを聞いて、企画書の字面だけでなく中身が聞こえてくるという点が良かった。

委員だけの企画ではなくて、各分館長、あるいは職員の皆さんの「ここの地域にはこういうものがあってもいいのではないか」という企画を大いに取り入れていくことも重要なのではないか。委員は自分の地域だけに固まって、自分の趣味趣向に偏っていくと思うので、それを中立的な立場で企画するということはあってもいいのではないかと感じた。

会 長 意見交換について、事業企画委員の方々もその必要性を感じていたことがわかって開催して良かったと思う。

サークル化については、なかなか結びつかないことがあるとのことだが、データ的にみると特別減っているわけではないとのことなので、今まで通りの企画の仕方でもいいと思う。また、サークル化については、企画の段階からそれを明確にし、募集する際には受講者に初めから伝える必要があると思う。そこには職員のサポートが不可欠だと思った。

公民館が学校や地域のHUB（中心）になるような講座を考える必要があるのではないか。学校と連携している講座がいくつかあるが、公民館が学校や地域の中心になるような講座を考えていけたらいいと感じた。

委員の負担感の軽減については、当日の配布資料「公民館事業企画委員会に関する成果と課題」に記されている。また、企画シートを提出後、職員が肉付けをしてアドバイスをしている状況を知った。職員企画の併用も取り組んでいるので、委員の負担感はかなり軽減されると思った。

委員の悩みの多くは、委員と職員とで解決できるものが多いと感じている。職員のスキルアップのためにも委員と職員との密なつながりが必要だと思う。各委員から他の分館ではどうしているのかと話されている委員がいたが、委員同士で集まれる、今の公民連のような様な横のつながりが作ればいいと思った。

委 員 私は、今回の自主研修会で、事業企画委員を招いて意見交換会をしたいという提唱者の一人だった。事業企画委員の悩みや思いを率直に聞いたことから、基本的に意見交換会を実施して良かったと思う。

サークル化について討論したが、サークル化には、先ほどの花小金井北公民館の説明のとおり、かなり職員の指導力によって、それがなされることが多いので他の分館も含めて頑張ってほしいと感じた。アンケートもいただいて一通り見たが、皆さんいろいろな意見があり、非常に参考になる。事業企画委員全員に配布してほしい。

事務局から全体的な意見を最初に言われたが、それに十分反映できないもの、あるいはもっと具体的に回答しないといけないものは、これからまとめる提言の中に「こういう意見が事業企画委員会から挙がっている」ということを挙げていくのがいいと感じた。

委員 事業企画委員会に傍聴に行きたかったがなかなか行けてなくて、初めて事業企画委員の方の生の声を聞けたので大変勉強になった。同じ小平市の公民館でもそれぞれの公民館で地域の特色があって、皆さんとても熱意があって素晴らしいと思った。アンケートにもあったが、事業企画委員の方の「公運審で話し合った内容を知らせてほしい。」といった内容もあったし、こちら側も事業企画委員でどのようなことを話しているか知りたくもあるので、公民館の課題というのをハッキリさせていくためにも事業企画委員と公運審とが連絡を取り合って、情報共有をこれからもしていくのがいいのではないかなと思った。

委員 サークル化をするのは大事だということは認める。行政というのは数字を大事にして何人の入場者があったとか、何人参加したとか、サークル化は何個作ったとか、そういうことで評価されるというが、何が一番大事かというとは皆さんご承知のとおり、2025年問題ということで、団塊の世代があと2・3年したら後期高齢者の仲間入りをする。そのような方々が欲しいのは「居場所」である。「居場所」をどう作るかという意味でその一つの手段として「サークル化」があるのかも知れないし、公民館のいろいろな事業があるかも知れない。ただ、どんどんサークル化して、会議室を優先的にその人達が使えば、新規に借りられる人がいなくなってくる。入れない。そういう問題が起こってくる。

提案1は、「仲間づくり」、「集まる場所」だとかで公民館の連帯のコントロールされる、拡大される場所が必要だと思う。「集い」や「サークル化」は実施してもらいたいが、できれば一般の団体は地域センターに入ってもらおう。地域センターは団体でしか使えないのでどんどん場所を空けてもらおう。

もう一つは、シニアの方が増えてくるので、各公民館で持っているロビーを有効利用して、なんとなく情報交換したり、お話ししたりする、ふれあいロビー（ふれあい広場）的に場所を提供することをぜひ実施してほしい。

委員 花南・大沼公民館の事業企画委員会は傍聴したが、他館の皆さんの声をきいたのは初めてなのでとても参考になった。事業企画委員会の皆様がいかに苦勞されているか、人選に苦勞されている話もあったし、地域性もあった。

サークル化をどうするかについては我々も考えていかないといけないと思う。地域性とかいろいろな問題はあると思うが、これから事業企画委員会との横のつながりを持続してほしい。

二つ目は、若い方の学校とか大学生とかをいかに公民館に引き込むかということを公民館自体が考えなければならない。それについてどうしたらいいのか、私は知恵があるわけではないが、大学生が参加するような仕掛けを事業企画委員会と情報交換しな

がらできたらいいと思った。

委員 事業企画委員会は、分館の館長の主催で分館の館長が人選をしている。長年やってきて館長も悩んでいて、事業企画委員も悩んでいることが分かった。今回は、各館 1 人しか参加できなかったが、自分の悩みだけでなく、仲間の悩みも持ってきて、具体的にこんな悩みがあるとおっしゃっていた。

あの会では悩みを聞きっぱなしで解決する会ではなかったこともあり、私は、「年に 1 回か 2 回、事業企画委員と分館の館長とが中央公民館に集まって生の声を聞くような会が必要ではないか」と言ってきた。この前の会の前後に「ここで解決できるものはあるのか」と聞いてきた事業企画委員がいた。長くやっていればいるほど悩みがあるらしいので、今度はぜひ公民館として開催してほしい。

館長 これから定期的な集まりはどうかという件について、事業企画委員会の委員はボランティアなので委員のみなさまの意見に耳を傾けながらより有効な意見交換の場が設けられるように検討している。

5 その他

資料 5 について、事務局から説明した。

資料 6 について、事務局から説明した。

次回の定例会は、12 月 14 日（火）午後 2 時から花小金井南公民館にて開催する。